

## 「ひと・もの・こと」を活用した学力向上への取組

大崎町立大崎小学校 教諭 濱田 一平

### はじめに

本校は、令和元年度「学びの組織活性化」推進プロジェクト実践校の指定を受け、学力向上を柱に研究を始めました。本校には豊富な「ひと・もの・こと」の素材がありましたので、それらをうまくつなぎながら効果的な方法を模索してきました。私はプロジェクトリーダーとして、2年間本校における学力向上に取り組んできました。その実践内容を紹介します。

同志社大学の下原教授は、「『ひと・もの・こと』それぞれの要素が相互に関連したシステムは効果的であり持続的に活用できる」と述べられています。

### 研究の実際

まず、自身の校務分掌や求められていることを整理し、「ひと・もの・こと」のバランスを意識した研究の構造化と計画を立てました。(ステップ1)

次に、現在の教育活動と「ひと・もの・こと」を関連付けながら最大限の活用を図りました。(ステップ2)

最後に、「ひと・もの・こと」全てを活用し、新しい取組を始めました。(ステップ3)

#### ステップ1 整理・構造化・計画段階

「〇〇の係として、(△△を活用して) □□を行う」という形で、自身の校務分掌と関連を図りながら整理・構造化・計画を行いました。

ひと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学年主任として、同僚の職員に指導に入ってもらう時間を設定する。</li> <li>○ 学級担任として、学び合いの学習環境をデザインする。</li> <li>○ 学級担任として、保護者に家庭学習の働きかけをする。</li> </ul>
もの	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町学力向上プロジェクト委員として、「よか問」の精選・呼びかけをする。</li> <li>○ 教育方法係として、「学びのサイクル」を計画どおりに進める。</li> <li>○ 学年主任として、「ペンタゴン・ロジック」を学年で実施する。</li> </ul>
こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ PTA家庭学習推進担当として、保護者に働きかける。</li> <li>○ 学習指導法改善係として、通信を通して職員に啓発する。</li> <li>○ 学力向上推進メンバーとして、職員に実践を働きかける。</li> </ul>

### ステップ2 焦点化・活用段階

#### ○「ひと」の活用例

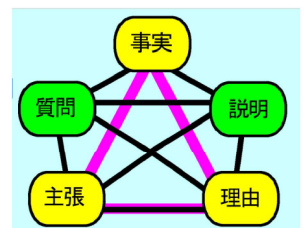
週に1回程度、専科教員や管理職が補充指導に入る時間を設定し、主に大隅教育事務所作成「よか問」を活用した個別指導を実施しました。



【個別指導の様子】

#### ○「もの」の活用例

論理的思考力を高めるとされる『ペンタゴン・ロジック』(参考：鹿児島大学原田准教授講義資料)を年間を通して活用しました。教室掲示を行い、教科横断的に活用しました。【ペンタゴン・ロジック】



#### ○「こと」の活用例

学力向上に関する通信を2年間で23号発行しました。各種学力調査の分析結果、共通実践事項、教職員の実践紹介など、学習指導に対する職員の雰囲気が高まるように意識しました。

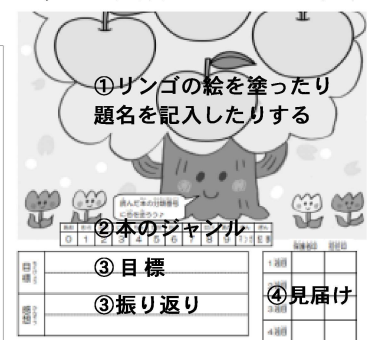
### ステップ3 応用・発展段階

読解力の向上と親子読書の充実を図るために、PTA家庭学習推進委員会と連携し、「楽しい読書の木カード」を作成し、週末課題として全学年で実施しました。

〈目的〉  
親子で協力して活字と触れ合う

〈実施内容〉

- ① 本を読んだらリンゴの絵を塗る
- ② 読んだ本のジャンルに色を塗る
- ③ 目標設定と事後の振り返りを保護者と一緒に行う
- ④ 毎週、保護者と担任で取組の見届けを行う



【楽しい読書の木カードの一部】

※ 詳細は大隅教育事務所ホームページ内(令和2年度教育活動実践記録)に記載しています。

### おわりに

今まで行っていた教育活動に、明確な目的をもたせ、「ひと・もの・こと」のバランスを意識して活用することで児童の学力向上につながりました。今後も工夫しながら授業改善を図っていきたいと考えています。